

見通し

氷はどこ？

社会福祉法人堺暁福祉会 きらり保育園（兵庫県神戸市）[0歳児]

<事前の様子>なるべくいろいろな人や物、素材に出会う機会を設けることを心がけてきた。保育園での初めての氷遊び。A児もB児も最初は興味を示さない。

	A児（11ヶ月）の姿	援助
出 会 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ A児は最初氷には興味を示さず、カップとカップを打ち付けたり腹這いの姿勢でカップを口元に持っていったりする。 ・ 腹這いの状態から手を伸ばしてカップを取ろうとする。偶然そこにあった氷の塊が右腕に当たり泣き始める。繰り返しカップに手を伸ばすが、何度やっても氷の塊が当たってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者に抱っこされると泣きやみ、保育者に笑顔も見せる。 
感 じ る ・ 探 索	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泣くことなくその氷を繰り返し触っている。 ・ 保育者をじっと見つめているA児は、保育者が笑っているのを見た後、口の中に氷を入れてみようとして口を開ける。 ・ 手のひらに乗せた氷を、指先を閉じたり開いたりしながら繰り返し見つめている。溶けた氷で濡れている足元をそっと手で確かめるように触っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泣き止んで落ち着いたA児を保育者の傍に座らせ、一口サイズの氷を手渡す。口に入れるのを止める。 ・ 氷が滑り落ちる度に、保育者がA児の掌に返す。

考 察

A児にとって未知のもの「氷」に出会い、いつもなら手を伸ばせばすぐに取りれるカップが取れず、思い通りにいかない不快さを、保育者に対して表情や涙で訴えた。保育者に抱かれて安心したことで、ボールやカップと同じように氷に触れ、繰り返し触るなど興味をもつようになった。信頼関係のある特定の大人（担任保育者）が表情や仕草で応えることでA児に安心感が生まれ、新しいものを試してみようという気持ちにつながり、再び遊び始めたと思われる。

	B児（14ヶ月）の姿	援助
出 会 い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めは氷に興味を示さない。前からよく触れていたカップやシート、タライの水で遊び出す。空のカップを口元へ持っていき、飲むまねをする。 ・ 15分後、食紅で着色した青色の氷を持ち、一人離れた所で遊ぶ。 	<p>（他児は氷遊びをする）</p> 
感 じ る ・ 探 索	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立った状態で氷を床に落としてみては床に落とした氷をつかんだり、大事そうに手のひらの中に入れてじっと見つめたりしている。 ・ 思いを共感して欲しいのか、何度も保育者の顔を見る。 ・ やがて氷が解けて小さくなり、つかみにくくなる。前かがみになりながらも必死に氷を手取る。 ・ 手に乗せていたはずの氷が溶けてなくなる。 ・ なくなった氷を探し始めるB児は、身体の下にないか確かめたり、何度も手を開いてみたりしながら保育者の顔を見る。 ・ しばらくしてB児はテラスの溝を指差し「ん？」と言って、前かがみになり溝の中をじっと見つめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者はB児の気持ちを代弁するように「どこにいったんだろうね」「氷、なくなっちゃったね」と言葉をかける。

考 察

B児は、普段は新しいものには慎重になる性格だが、この時は氷遊びをする他児の姿を見ることで、氷と出会い、まねをし始めたようである。何度も氷を落としても、必ずそこにあると頭で考えていた氷がふと消えてしまった。身体の下にあるだろうと見て、考えてみても見つからない。そこで、なくなった氷が溝に入ったであろうと指をさして「んっ？」と言葉で表す。少しずつ自分の思い、考えを保育者に伝えている瞬間だと感じた。

ポイント

A児もB児も当初は氷ではなく、目を引く環境に興味を示しているのかもしれませんが、氷の存在に気付くと、0歳児なりに氷の感覚を楽しみながらかかわり遊んでいます。今までかかわってきた“もの”にない感触や色、形、温度、そして、溶けたりなくなったりする不思議さに気持ちを集中し、全身で様々なことを感じ取り楽しんでいます。興味をもった対象にかかわることで「科学する心」の育ちに繋がることが期待できます。